

# 検査 1

## 国語

### 解答上の注意

- 1 「始め」の指示があるまで、問題を見てはいけません。
- 2 問題は、この冊子の中の1～4ページにあります。
- 3 答案用紙には、**受付番号**を書きなさい。氏名を書いてはいけません。
- 4 解答は、それぞれの問題に示してある【答の番号】と、答案用紙の【答の番号】とが一致するように注意して、答案用紙に答えを記入しなさい。
- 5 答えとして記号を選ぶものは、答案用紙の答の欄の当てはまる記号を○で囲みなさい。答えを訂正するときは、もとの○をきれいに消すか、それに×をつけなさい。
- 6 答えとして記述するときは、丁寧に書きなさい。
- 7 答案用紙の採点欄には記入してはいけません。
- 8 答えの書き方について、次の例を見て間違いないようにしなさい。

### 解答例

一 火曜日の翌日は何曜日か、漢字一字で書け。……………【答の番号】【1】

二 次の問い(1)・(2)に答えよ。

(1) 次の説明のうち、正しいものはどれか、(ア)～(エ)から一つ選べ。……………【答の番号】【2】

(ア) 北と反対の方角は西である。

(イ) 南と反対の方角は東である。

(ウ) 東と反対の方角は西である。

(エ) 西と反対の方角は南である。

(2) 次の数のうち、奇数はどれか、(ア)～(オ)から三つ選べ。……………【答の番号】【3】

- (ア) 1 (イ) 2 (ウ) 3  
 (エ) 4 (オ) 5

二		一	問題番号	答の番号	答の欄	採点欄
(2)	(1)		【1】	【1】	水曜日	【1】
【3】	【2】	【1】				
ア イ ウ エ オ	ア イ ウ エ	水				
【3】	【2】	【1】				

検査	
1	
受付番号	
1	23456
得点	

「字数制限がある場合は、句読点も一字に数える。」

- ① 次の文章は、「続古事談」の一節である。注を参考にしてこれを読み、問い(1) (5)に答えよ。(12点)

故少納言入道、人にあひて、「敦親はゆゆしき博士かな。物をとへば知らず知らずといふ」といはれけり。其れを問ひたる人、「知らずといはんは何のいみじからんぞ」といひければ、「身に才智あるものは知らずといふ事を恥ぢざる也。実才なきものの、よろづの事をしりがほにするなり。すべて学問をしては、皆の事をしりあきらむる事と人のしれるは僻事也。大小事をわきまふるまでするを、学問のきはめとはいふなり。それを知りぬれば、難議をとはれて知らずといふを恥とせぬなり」とぞいはれける。

〔新日本古典文学大系〕による

注

- ① 故少納言入道＝藤原通憲
- ② 敦親＝藤原敦親
- ③ 難議＝難しい事柄や言葉の意味

- (1) 本文中の「いふ」・「いはれける」の主語は誰か、最も適当なものを、それぞれ次の(ア)～(ウ)から一つずつ選べ。 答の番号【1】

(ア) 故少納言入道 (イ) 敦親 (ウ) 其れを問ひたる人

- (2) 本文中の「問ひたる」はどのようなことを尋ねたのか、最も適当なものを、次の(ア)～(エ)から一つ選べ。 答の番号【2】

- (ア) 知らないと言ったのどうしていけないのかということ。
- (イ) 知らないと言ったのはどのような人物なのかということ。
- (ウ) 知らないと言ったのどうしてすばらしいのかということ。
- (エ) 知らないと言ったのはどのような意図なのかということ。

- (3) 本文中の「実才なきものの、よろづの事をしりがほにするなり」の、「実才なきもの」と対比的な意味の表現として最も適当なものを、本文中から八字で抜き出し、初めと終わりの二字を書け。また、「しりがほ」を現代仮名遣いに直して、すべて平仮名で書け。 答の番号【3】

- (4) 本文中の「僻事也」は「間違いである」という意味であるが、ここではどのようなことに對して間違いであると述べているのか、最も適当なものを、次の(ア)～(エ)から一つ選べ。 答の番号【4】

- (ア) 学問を修めるとはすべてのことについてすっかりわかることであると、人々が思っていること。
- (イ) 学問を始めたけれども途中であきらめてしまった人のことを、非難して責めること。
- (ウ) 学問によってものごとを知っていくことはそれほど必要ではないと、多くの人が考えていること。
- (エ) 学問を通してあきらまなくなったものごとを、人々にすべて知らせてしまうこと。

- (5) 次の文章は、本文中の「知らずといふを恥とせぬなり」についてまとめたものである。これを読み、後の問い①・②に答えよ。

「知らずといふ」ことを「恥とせぬ」のは、どういうわけなのか考えてみると、まず、「それを知りぬれば」という表現に気づく。「それを知るゆえに「恥とせぬ」のである。そしてこの「それを知る」とは具体的には「I」ことができるようになることを意味していると理解できる。このことから、「知らずといふ」のは、その人が II ことのあるわけなのである、という考え方が、ここでは述べられていることがわかる。

- ① I に入る最も適当な表現を、本文中から九字で抜き出し、初めと終わりの二字を書け。 答の番号【5】

- ② II に入る最も適当なものを、次の(ア)～(オ)から一つ選べ。

- (ア) 知識を多く得ることに価値をおき、常にそのための努力をしている
- (イ) 大切なことを学習できたのに、学んだことの多くについて忘れていく
- (ウ) 向上心を高く持ち、さまざまな人の教えを進んで受けることができる
- (エ) 重要なところを見分けることができ、ものごとの本質を理解している
- (オ) 自ら思考することをすぐにあきらめ、安易に人に頼ろうとしている

裏へつづく

二 次の文章を読み、問い(1)～(12)に答えよ。(28点)

(1)～(6)は、各段落の番号を示したものである。

1 日本の伝統文芸の一つに俳句がある。もちろん、俳句にもいろいろな行き方があるわけだが、その中で最もオーソドックスで、支持されているのは、有季定型、**A**、十七音の定型の中に、必ず季語を入れるという作り方である。季語とは何か、これもいろいろと定義されてはいるが、ここでは四季という日本の自然の移り変わりの中で、詩語として日本人の美意識の中で磨き上げられて来て、一句の中において核をなす、季節感を持った語というふうに理解してもらっていいと思う。季語の中には、『万葉集』の昔から存在する、古い歴史を持ったものもあるし、文明の利器の急激な発達によって、新たに登場して来たものもある。が、一つの季語がどの季節に分類されているかは、『古今集』以来の伝統的な和歌の季節感を踏まえつつ、江戸時代の「里」、すなわち農業を中心とした生活の中で実感された季節感を基盤としていって差し支えないだろう。

2 さて、ここに「胡瓜」という季語がある。晩夏のものでされている。『初学抄』(寛永一八「二六四」)、『世話尽』(明暦二「二六五六」)など、江戸初期の歳時記も同じように分類していて、それ以来、ずっと「胡瓜」は真夏の季節感を持ったものとされて来ている。が、現在、どのくらいの人が、「胡瓜」に夏を感じるだろうか。俳句の鑑賞と実作を指導していた授業で、私はアンケートを取ってみた。すると、半数以上の学生は、「胡瓜」には季節を感じないと回答し、春の季語だと回答した者も十五パーセント近くに及んだ。中には冬の季語という回答もあり、いずれにせよ、夏の季語と答えた者は少数派であった。〈1〉それは無理もないことで、今、「胡瓜」は一年中、テントウに並べられているし、あるいは、暖房の効いた部屋で、冷蔵庫で冷やした「胡瓜」のサラダを食べるのがいちばんおいしいのかもしれない。**B**、プロの俳人の中にも、「胡瓜」はすでに季節感を失っているから、季語から外せという意見の人さえ出て来ている。〈2〉従来の歳時記の枠に捉われていたら、俳句は時代に取り残されてしまうというのである。しかし、季節感に最も敏感で、四季の移ろいに心情を託すべき俳人が、こんなことを軽々しく発言していいのだろうか。

3 〈3〉江戸時代には、真夏にならないと食べられないものだったから、おのずと夏の季語となったのである。今、「胡瓜」に夏の季節感を持たないという人は、

【下へつづく】

一年中栽培される、温室栽培、促成栽培のものに慣らされているからにちがいない。

4 「胡瓜」が年中出回るようになったのは、品種改良その他、大変な研究の蓄積によるものでもあろうが、最も大きな要因は、石油を大量に使って、大規模な温室栽培をするようになったからであろう。〈4〉その恩恵で我々は年中、「胡瓜」を**C**にすることができるようになったのである。その経済効果を考えると、それ自体は、決して悪いとも思わない。が、それが本当に暮らしが豊かになったということなのだろうか。石油の大量消費の結果、地球温暖化という、人類の生存にもかかわる環境の変化が起こっている。「胡瓜」の温室栽培に使用される石油量など、高が知れているのかもしれない。が、それでも石油を燃やし続けていることには変わりはない。二十一世紀にはもっと農業人口が減って、大規模栽培が無人で行われる時代になるだろう。そうなった時、野菜、果物の季節感などは、跡形もなく吹き飛んでしまうことだろう。しかし、果たしてそれが豊かさに結び付くものかどうか。

5 〈5〉俳諧、俳句の理念に、「わび」「さび」という言葉がある。その本質を簡単に解くことはむずかしいが、一口で言えば、閑寂美ということであろう。が、言葉からしても、「わび」はわびしい、「さび」はさびしいということとつながっている。わびしさ、さびしさをマイナス評価しないで、そこに美を、楽しみを感じて来たのが俳諧、俳句の歴史なのである。真夏になって初めて、自然に実った、独特の香りと甘さを持った「胡瓜」を**D**にできた昔の人々の心躍りを、もう我々は取り戻せないのだろうか。

6 暦通りには行かないにしても、季節の「時序の正しさ」を、ひたすら願って来た我々の祖先の心を思う時、物質的な豊かさよりも、心の豊かさに重きを置くことができるかどうか、発想の転換が迫られているのではないだろうか。季節を見直すというのは、季節に合わなくなったから、季語の位置を変更せよということでは、決してない。自然暦に沿った季節感に照らして、その歪みをグローバルな環境の視点から、見直す必要はないかということなのである。

(三村昌義「季節をみなおす」による)

注

○オーソドックス＝一般的

○グローバル＝全地球的

(1) 本文中の **A**・**B** に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の I 群 (ア) ～ (エ) から一つ選べ。また、**A**・**B** に入る語を  に入れて文意が通じる表現として最も適当なものを、**A** は後の II 群 (オ) ～ (ク) から、**B** は後の III 群 (ケ) ～ (シ) から、それぞれ一つずつ選んで記号で書け。

I 群 ..... 答の番号【7】

- (ア) A そのうえ B および (イ) A それとも B ところが  
(ウ) A しかし B なぜなら (エ) A つまり B したがって

II 群

- (オ) 朝食は和食にしますか。 、洋食にしますか。  
(カ) 今朝は気温が低かった。 、風も強かったので、コートが必要だった。  
(キ) 彼の話し方は力強く、説得力もある。 、彼は雄弁家であるということだ。  
(ク) その芸術家は、これまではあまり世に知られていなかった。 、今回の展覧会に出品した作品によって、一躍有名となった。

III 群

- (ケ) 彼女は人望が厚い。 、勤勉であり、社交的でもあるからだ。  
(コ) 天気予報での降水確率は低かった。 、大雨に見舞われてしまった。  
(サ) 自転車でお越しの方、 、徒歩でお越しの方は、こちらをお通りください。  
(シ) この地域には、名所や旧跡が数多く存在している。 、日本のみならず海外からも、毎年大勢の観光客が訪れている。

(2) 本文中の **a** 季語 について、筆者が **1** 段落で述べていることとして適当でないものを、次の (ア) ～ (エ) から一つ選べ。 ..... 答の番号【8】

- (ア) 季語は一句の俳句において中心となる詩語である。  
(イ) 季語があることによって日本人の美意識は磨かれてきた。  
(ウ) 季語の中には、時代の流れの中で新しく登場したものもある。  
(エ) 季語の存在は、日本における四季の移り変わりりと深いかわりがある。
- (3) 本文中には次の一文が抜けている。本文中の (1) ～ (5) のどこに入るか、最も適当な箇所を示す番号を一つ選べ。 ..... 答の番号【9】

そもそも、「胡瓜」が夏の季語となったのは、何も、無理に夏に押し込めただけではない。

(4) 本文中の **b** テントウ を漢字で書け。 ..... 答の番号【10】

(5) 本文中の **c** あるいは の意味として最も適当なものを、次の I 群 (ア) ～ (ウ) から一つ選べ。また、本文中の **d** おのずと の意味として最も適当なものを、後の II 群 (エ) ～ (キ) から一つ選べ。 ..... 答の番号【11】

I 群 (ア) それでなければ (イ) もしかすると (ウ) あるものは

II 群

- (エ) ひっそりと (オ) 自然と (カ) うっかりと (キ) 漠然と

(6) 本文中の **d** 託す の漢字の部分の読みを平仮名で書け。 ..... 答の番号【12】

(7) 本文中の **C** と **D** には同じ語が入る。最も適当な語を、本文中に用いられている漢字一字で書け。また、これと同じ漢字を  に入れて、四字熟語を完成させることができるものを、次の (ア) ～ (エ) から一つ選べ。 ..... 答の番号【13】

- (ア)  挙兩得 (イ) 不  実行  
(ウ)  味乾燥 (エ) 異  同音

(8) 本文中の **f** 地球温暖化という は、どの文節にかかっているか、最も適当な一文節を、本文中から三字で抜き出して書け。 ..... 答の番号【14】

(9) 本文中の **g** それでも とはどういうことか、最も適当なものを、次の (ア) ～ (エ) から一つ選べ。 ..... 答の番号【15】

- (ア) 使用される石油の量はたいしたことなくても  
(イ) 使用される石油の量ははっきりわかっていても  
(ウ) 使用される石油の量には限界があるのだとしても  
(エ) 使用される石油の量が多いと言われているとしても

(10) 本文中の **h** 物質的な豊かさ に関連した具体的なことからであると筆者が考えていることとして適当でないものを、次の (ア) ～ (エ) から一つ選べ。 ..... 答の番号【16】

- (ア) 「胡瓜」が温室で大規模に栽培されていること  
(イ) 「胡瓜」が年中出回っていることに慣れてしまっていること  
(ウ) 夏に実った「胡瓜」に対して昔の人々と同じような心躍りを覚えること  
(エ) プロの俳人の中にも「胡瓜」を季語から外すべきだという人が現れること

裏へつづく

(11) 本文に書かれている内容と一致している文として適当なものを、次の(ア)から(カ)から二つ選べ。……………答の番号【17】

(ア) これからの時代においては、人類の生存の危機を回避するためにも、これまでの研究の蓄積を生かした品種改良や大規模な温室栽培をより一層進めてゆくべきだ。

(イ) 俳諧や俳句などの伝統文芸のあり方が時代の変化につれて変わってゆくのは当然のことであるが、そうかといって、文明の利器の発達によって新しい季語が登場するのは望ましくない。

(ウ) ささまざまな栽培方法の開発によって野菜や果物を一年中手に入れることが可能にできたことの背景には、昔ながらの季節感に裏付けられた美意識が不可欠なものとして存在していたと言える。

(エ) これからの時代においては、古くから実感されていた季節感に照らし、現代の人々の中で顕著になりつつある季節感の希薄さを省みるとともに、豊かさの質について再考することが求められる。

(オ) ささまざまな栽培方法の開発に伴って、野菜や果物が持つ季節感の変化による季語の位置の見直しが必要になりつつあるが、そうすることによって、俳諧・俳句の目指す閑寂美の本質を見極めることができると考えられる。

(カ) 俳諧や俳句などの伝統文芸には、わびしさやさびしさを感じさせるものの中にこそ美を認めようとする流れがあるが、これは、野菜や果物をしかるべき季節になって初めて味わえることに喜びを見いだすことと通じるものである。

(12) 次の文章は、中学生のゆかりさんが、本文中に述べられている「アンケート」についてまとめたレポートの一部である。これを読み、下段の問い①～③に答えよ。

アンケートとは、ある事柄について質問し、多くの人の考えや意見をきくという調査方法で、集めた情報をもとにして「どのような考え方があるか」や「全体的な傾向はどうか」などを知ることができます。アンケートには、選択肢から選んで回答する形式のものや、自由に記述して回答する形式のものがあります。本文中の[2]段落に書かれているアンケートの結果から考えると、筆者がおこなったアンケートは、例えば次のようなものであったらどうと考えられます。

筆者がおこなったアンケートの結果として、「夏の季語と答えた者は少数派」であることがわかったことから、このアンケートの回答者の多くにとって、「胡瓜」は[II]ということが言えると思います。

アンケートによって情報を集める際にはいろいろな心構えが必要です。それらにも留意した上でアンケートを適切に実施することにより、効果的に情報を集めることができます。

① に入る「筆者がおこなったアンケート」として考えられる最も適当なものを、次の(ア)～(オ)から一つ選べ。……………答の番号【18】

(ア) 質問 あなたは、どの季節に食べる「胡瓜」が一番おいしいと感じますか。次のA～Eから一つ選んでください。

- A 春 B 夏 C 秋 D 冬 E わからない

(イ) 質問 あなたが「夏の季語だ」と感じるものをいくつでも書いてください。

(ウ) 質問 あなたは、「胡瓜」はどの季節の季語だと感じますか。次のA～Eから一つ選んでください。

- A 春 B 夏 C 秋 D 冬 E 特に季節を感じない

(エ) 質問 「胡瓜」が季語に入っていることについて、あなたはどのように思いますか。自由に書いてください。

(オ) 質問 次のA～Hから、あなたが「夏の季語だ」と感じるものをすべて選んでください。また、「季節を感じない」と思うものをすべて選んでください。

A 桜 B 胡瓜 C 菊 D 大根  
E 鮎 F 茄子 G 啄木鳥 H 河豚  
「夏の季語だ」と思うもの → ( )  
「季節を感じない」と思うもの → ( )

② に入る最も適当な表現を、本文中の[2]段落から九字で抜き出して書け。……………答の番号【19】

③ 一般に、アンケートを適切に実施する ための心構えとして、ふさわしくないものを、次の(ア)～(エ)から一つ選べ。……………答の番号【20】

(ア) 知りたいことを明確にして、あいまいさのない質問をすること。  
(イ) 信頼性の高い情報を得るのにふさわしい人数に対して質問をすること。  
(ウ) 得られる情報量を増やすために、質問項目を絞るようなことはせず、調査の目的を離れた質問も数多く設定すること。  
(エ) 回答者のプライバシーに配慮したり、失礼のない尋ね方を工夫するなど、答える側のことも考えて質問を設定すること。

# 検査1 国語 正答表

二														一						問題番号		
(12)			(11)	(10)	(9)	(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(5)		(4)	(3)	(2)	(1)			
㊦	㊧	㊨												㊦	㊧							
【20】	【19】	【18】	【17】	【16】	【15】	【14】	【13】	【12】	【11】	【10】	【9】	【8】	【7】	【6】	【5】	【4】	【3】	【2】	【1】	番号		
㊨	季節感を失っている	㊨	㊧ ㊦ ㊨	㊨	㊦	㊦	㊦	㊦	I ㊦ II ㊦	店頭	㊦	㊦	I ㊦ II キ III シ	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	a ㊦ f ㊦	答の欄		
【20】	【19】	【18】	【17】	【16】	【15】	【14】	【13】	【12】	【11】	【10】	【9】	【8】	【7】	【6】	【5】	【4】	【3】	【2】	【1】	備考欄		
							完全解答						完全解答									
2	2	2	(各1) 2	2	2	2	2	2	(各1) 2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	(各1) 2	2	(各1) 2	配点